



# 蒲小だより

未来を拓く児童の育成

## 9月2日、2学期スタート！

文責 校長 山本 智文

42日間の長い長い夏休みが終わり、学校に子ども達の元気な声が戻ってきました。今年の夏休みも、暑い日が続きましたが、充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。これまで行けなかったところに行ったり、親戚や友人と再会したりして思い出に残る夏休みを過ごせたのではないのでしょうか。エネルギーを充電できたことでしょう。



さて、9月2日の2学期の始業式では、私から、子どもたちに意識してほしいことを大きく2点お話ししました。

今年もとても暑い夏休みでした。毎日のように猛暑、雷雨、という言葉が天気予報から聞こえてきた夏でした。

そんな中、本日、君たちとこうして元気に会えたこと、校長として大変うれしく思います。

夏休みだからできたこと、夏休みにしかできないようなこと等、様々な体験をしたことでしょう。みなさん、それぞれが、有意義な夏休みを過ごせたものと思います。夏休みの体験を、ぜひ、2学期の生活の中で生かしてほしいと期待します。本日も、暑くなりそうですが、2学期の始業式なので、君たちに、2学期意識して生活してほしいことを2点お話しします。

まず、1点目。君たちの中には、「金子みすゞさん」という、明治時代の後半に山口県で生まれ、26歳という若さでこの世を去った女性の名前を聞いたことがある人もいます。この女性が書いた詩に、有名な詩「私と小鳥と鈴と」というのがあります。ここで、その詩を読みます。

「私が両手を広げても お空はちっとも飛べないが  
飛べる小鳥は私のように 地べたを早く走れない  
私が体をゆすっても きれいな音はでないけど  
あのなる鈴は私のように たくさんな唄は知らないよ  
鈴と小鳥とそれから私 みんなちがって みんないい」

知っているという人もいます。

この詩の中身は、人によってさまざまに感じることでしょうが、私は、最後の「みんなちがって みんないい」という言葉が好きです。

空を飛べても、飛べなくても、美しい音が出せても、出せなくても、みんな同じではなく、違うからこそ素晴らしいのではないかという金子さんの思いが伝わってきます。私は、「それぞれの良いところをお互いに認め合って生きていくことが素晴らしいことなんだ」という思いで書かれている詩だと思います。

私は、こうした見方・考え方を君たちにぜひ、大切にしてほしいと思っています。常に「相手意識」をもち、友だちのことをありのまま受け止めることのできる「蒲小健児」であってほしいと願っています。

2学期は、蒲刈小学校が熱く燃える「学習発表会」が11月に計画されています。秋には、「スポーツの秋」「学問の秋」「読書の秋」という言葉があります。スポーツや勉強、読書をするの



にとってもふさわしい時期です。そうした時期ですから、ぜひ、勉強も運動も、すべてにわたって充実した学校生活を送ってほしいです。

自分と似ている友だち、その逆の友だち等、「いろいろな友だちの良さ」をお互いに認め合って、1学期以上に仲間との絆を強めてほしいです。その時に、大切なのが、「**みんなちがって みんないい**」です。ぜひ、2学期はこのことを全員で意識し合いながら、学校生活を送っていきましょう。温かい蒲刈小学校を私たち全員でつくっていきましょう。

2点目。もう一つ、言葉を紹介します。

玄関を入った右横の壁の上に、漢字四文字の言葉を7月に入って掲示しています。見たことある人？  
どういう言葉か分かる人？

それは「**共学 楽笑**」という言葉です。

どういう意味か、想像できる人？

「**お互いが相手を意識し、共に学び合うことで、そこに笑顔が生まれ、共に、楽しく笑い合いながら生活していける**」という意味の言葉です。「**楽しく笑う**」というのは、ゲラゲラ笑うということではありません。「**友だちと一生懸命になって勉強することが楽しい。みんなで協力し合って生活していくことが素敵なことなんだ。**」と思いながら生活していくことで、君たちは、どんどん力を付けて、大きく成長していけるのです。

校長先生は、本日、君たちに「**みんなちがって みんないい**」、「**共学 楽笑**」という言葉のもつ意味を意識してほしいと、2つのお話をしました。

君たちの、2学期の奮闘を健闘を心から応援しています。

以上で、校長先生のお話を終わります。最後まで、しっかりと聞いてくれてありがとう。

本校教職員は、2学期の子ども達の生き生きと活動する姿を思い浮かべながら、夏休みの間準備をしてきました。みんなでより一層伸びていける学期にしていきたいと思えます。保護者の皆様、蒲刈町・下蒲刈町の地域の皆様、2学期も引き続き「蒲刈小学校の子どもたち」を、「蒲刈小学校」をよろしく願います。



### 授業風景(9月2日)

第2学期の始業式の後、子どもたちは各教室に帰り、担任とともに2学期の良いスタートがきるよう、学級開きを行いました。各担任は、子どもたちが2学期を実り多いものにできるよう、児童一人一人が具体的な目標を設定できるよう子どもたちに働きかけていきました。



1年生



2年生



3・4年生



5・6年生



オレンジ1組



給食風景

### 平和集会(8月6日)

8月6日(火)の全校登校日に「令和6年度 平和集会」を全校児童で行いました。

この会のねらいは、「平和学習を通して、戦争や平和を自分事として考え、恒久平和を願い構築していこうとする心情や態度を育てる。」です。5・6年生を中心に、「図書委員会による絵本『ドームものがたり』の読み聞かせ」「おりづる作成(メッセージを書く)」「児童委員による蒲刈小学校平和メッセージ」と会が進められていきました。

蒲刈小学校では、毎年、平和学習に取り組んでいます。昨年度は、広島市内からゲストティーチャーをお招きし、実体験を語っていただきました。一人一人が色紙に平和への自分の思いを綴り、そして、おりづるを完成させていきました。なかなか思うように色紙を折れない子に高学年の子が手を差しのべるなど、温かい雰囲気の中、会は進行していきました。最後に、児童委員の児童が考えた「平和メッセージ」が読み上げられていきました。現在、世界に目を向けると戦争が起きています。戦争をやめようとはしません。その間、子どもたちを含め多くの人々が命を落としています。決して、許されることではありません。だからこそ、私たちは、ヒロシマ・長崎で起きた事実を、真実を学び続け、行動に移していかなければなりません。原子爆弾が広島に落とされた後、私の祖父は兵隊として広島に出向き、亡くなった方々のご遺体を火葬し、ご冥福をお祈りしたそうです。悔しくて、悲しくて、涙が止まらなかったと私に涙ながらに話してくれたことを昨日のように思い出しました。来年度も、平和学習は続けていきます。学び続けることが大切だと思っています。



### 挨拶が返ってこないのがっかりするなあ!



今からお話することは、「蒲刈小学校の子どもたちが...」ということで取り上げたことではありません。私が教員として出会ってきた子どもたちのことを思い浮かべながら、「大切にしていきたいこと」を整理しながらお話していきたいと思えます。どうか、お付き合いください。

子どもが挨拶やお礼を言えないのは、その子どもを取り巻く大人たちの生活スタイルが大きな影響を与えている場合が多いと思っています。日常的に、礼節の言葉「おはよう」や「ありがとう」等を使わない家族の中では、挨拶やお礼がきちんとできる子どもは育ちません。子どもは大人たちを観て、その姿をまねて育っていくものです。したがって、家族がお互いに挨拶を交わす環境で成育しなかった子どもは、小さいころに自然と身につくはずの「挨拶の習慣」が身につかず、挨拶を交わしたり、感謝の気持ちを言葉に表わしたりすることに抵抗を示すようになります。

また、恥ずかしいから挨拶ができないという子どももいます。したいけれど、声が出ないという感じ。これらの他にも、反応がなく、能面のように無表情な子どももいます。この場合は、親が過保護なことが多く、何でも先回りして与えてしまうために、そうした状況を子どもは“**自然で当たり前だ**”と認識してしまいます。このような子どもは、“**人から挨拶されるのも当然だ**”と感じ、人が自分のために何かをしてくれることに対して、“**感謝の気持ち**”は湧いてきません。

このように、最近の子どもたちの中には、十分に“**感情**”が育っていない子どもが増えてきているように思います。挨拶されても何とも思わない、挨拶しなくても何とも思わない。ましてや、“**自分の行動が相手にどんな感情を与えているか**”を読み取れない子どももたくさんいます。そうした子どもに対して、“挨拶すると気持ちいいよ。”とか“挨拶されないと寂しいよね。”といった言葉をかけても、もともとそのような感情をもっていないのですから、その子にとっては、“教師の気持ちの押し付けの言葉”でしかなく、心の奥底まで届いて（響いて）いきません。

### 「感情」を教える

このように“**感情**”が育っていない子どもに対しては、“**挨拶されなかった相手の気持ちを教える**”ことがポイントとなります。これは、子どもから挨拶が返ってこなかったときに、教師が“**自分の感情**”を子どもに伝えると効果的です。“挨拶が返ってこない、嫌われているのかがっかりする。”“挨拶されないとせつない気持ちになる。”“挨拶が返ってこない、元気がなくなる。”“君の挨拶の音が聴けないと一日中気になって仕方がない。”“お礼の言葉が返ってこない、気に入らなかったのかと心配になる。”等、挨拶やお礼が無かった直後に、間髪入れずに、そのときに抱いている相手の感情をそのまま子どもに伝えていくことが大切になってきます。この場合、“挨拶はすべきだ。”とか“人として挨拶することは当然のことだし大切なことだ。”等、教師側の価値観の押し付けは付け加えない方が“**感情**”が素直に伝わっていきます。純粋に、人として感じたままを伝えたらよいのです。

### 無理に挨拶をさせない

挨拶やお礼の言葉が返ってこなかったときの感情を伝えても、挨拶が返ってこないときも当然あります。そのときは、無理にさせることはしない方が良いでしょう。無理強いされた挨拶は気持ち良くないので、“挨拶”というものに対しての良い感情が育たなくなります。心から自然に挨拶やお礼が言えるようになるまで、焦らずに言葉かけを続けていくことが望ましいと考えます。

### 感情を育てる

子どもから挨拶やお礼の言葉が返ってきたときに、子どもの様子を観て、状況が良ければ、さらに、“今、挨拶してくれて、ぼくはうれしいよ。君はどんな気持ち？”と、このときの気持ちを振り返らせ、思いを語らせると良いでしょう。このことで、“**子どもの感情を育てていく**”ことができるのです。子どもの“**恥ずかしかったけれど、思い切って言えた**”や“**言ってみて、正直、気持ちよかった**”等の言葉が返ってきたら、さらに、“思い切って挨拶してくれて、うれしいよ。”“そう、気持ち良かったんだ。ぼくも気持ち良かったよ。ありがとう。”等の“**勇気づけの言葉かけ**”をしていくと良いでしょう。“**感情**”を“**言葉**”として表現するのが苦手な子どもも、“**どんな気持ち？**”等の声をかけられたときには、たとえ、その場は言葉にできなくても、自分の心の中を少し見つめることになります。さらに、このとき、周りに自分の気持ちを表現できそうな子どもがいれば、その子にも同じ質問をすれば良いでしょう。言葉にできなかった子が、人の感情を言葉として聞くことで、自分の感情と照らし合わせることができ、すると、自分も同じ気持ちであるとか、自分と違う気持ちであるとかに気付くことがあります。そして、“山本さんが言ってくれた気持ちと同じかな？”等と聞いていくと、だんだんと“**自分の感情**”に気付き、“**自分の感情**”を語れるようになっていくのです。要するに、子どもの勇気を信じて、教師（大人）が寄り添い続けることが大切です。

### 素敵な蒲刈小学校の子どもたち

蒲刈小学校の子どもたちは、登校して来ると、一人一人が職員室に顔を出し“おはようございます”と挨拶をして教室に上がっていきます。帰るときも同様に、職員室に顔を出し“さようなら”とか“今日一日ありがとうございました”と言って帰宅していきます。とても素敵な瞬間です。また、廊下や階段ですれ違うときも“おはようございます”“こんにちは”、中には“校長先生、おはようございます”と名前を先に付けて挨拶してくれる子どももいます。極めつけには、“校長先生、今日もきまっていますね”と評価してくれる子どももいます。蒲刈小学校の子どもたちは、相手を意識して、“**自分の言葉**”で挨拶を交わすことができます。温かい学校です。感謝、感謝。